プリンセス 小公女セーラ

第26話

『年少組の小さな先生』

AR台本

企　画
制　作　日本アニメーション株式会社

プリンセス

小公女セーラ

第二十六話　『年少組の小さな先生』

登場人物

セーラ…………島本須美
ミンチン…………中西妙子
アメリア…………梨羽由記子
アーメンガード…………八百板万紀
ロッティ…………渡辺菜生子
ベッキー…………鈴木三枝

ラビニア……………山田栄子
ガートルード……………佐々木るん
ジェシー……………飯塚はるみ
モーリー……………向殿あさみ
ジェームス……………郷里大輔
デュファルジュ……………上田敏也

カメラ	画面	音声
1	必死になってバーを上下させているセーラ　袖まくり	
2	ポンプの口から水が溢れ出ては止まる	
3	ポンプをこぐセーラ　やめてオケを持ち手前へ	
4	セーラ、桶を持ち、洗い場の方へ	
5	セーラ　水タマリ場に桶の水を入れる　桶を置き　手桶で水をくみ、洗い桶へ	
6	セーラ　鍋を洗うセーラ　横にしてゴシゴシと　逆さにしてゴシゴシ　水をかける	
7	ベッキー、皿の山を持って入っ	

	て来る。　?!　と目を見はり、 手前へ		
8	ベッキー、手前から近寄り		ベッキー「お、お嬢様、ここは私がお引受け致 しますから」
9	セーラ、ベッキーの皿を見 セーラの後を通り		セーラ「でも、洗い物がこんなに……」 ベッキー「いいえ、お嬢様…… 〜 …お嬢様は今日からロッティさんたち 年少組の皆さんに、フランス語をお教 えになるんでございましょ」
10	皿を洗い場に置きながら		セーラ「ええ……」
11	ベッキー、胸に手をやり		ベッキー「私、嬉しいんでございます。お嬢様 が先生に御出世されたなんて…」
12	セーラ 横に手をのばす		セーラ「まあ、出世だなんて… 〜〜〜 デュファルジュ先生のお蔭で、フラン ス語の時間だけ小さな子を受持つ事に なっただけよ」
13	セーラ、手桶で水をかける		

14	ベッキー 見廻しながら		ベッキー「それだって立派な先生でございますわ。お嬢様には、こんな台所仕事よりよっぽとお似合いでございますもの」
15	セーラ		セーラ　「まあ、ベッキーたら」
16	入口　アメリア現われ 見るセーラ達		ベッキー「あらホントよ」 アメリア「セーラさん、そろそろ授業の準備して下さいね」
17	セーラ　ベッキー		セーラ　「はい、アメリア先生」
18	アメリア		アメリア「あ、それから教室に行く前に院長室に来て下さいね」
19	セーラ　ベッキー		セーラ　「はい」
20	アメリア去る		
21	見送るセーラに セーラふりむき　前掛けをはずし乍ら ベッキーに渡し、手前へ		ベッキー「さ、お急ぎになって」 セーラ　「じゃ、ベッキー悪いけど、あとお願いね」 ベッキー「任しておいて下さいまし」

22	出て行く		
23	誇らしげに微笑で見送るベッキー		
24	沢山のコップをのせた盆を持ってモーリーが入って来る モーリー立ち止まり ベッキー と、鼻歌で洗いだす		モーリー「さあさあ、今日から後片付けはお前一人だからね。急いでおくれ」 ベッキー「なあにこんな皿洗いぐらい、私一人で充分でございますよ」
26	元気よく洗うベッキー次々と		
27	モーリー唖然と 目パチクリ		モーリー「まあ、この子ったら、どうしちまったんだろう」
28	地下室の階段を上ってくるセーラ		
29	一階ホール　セーラ出て来て院長室の方へ　セーラ立ち止まり ノック		S・E（トントン）

	扉をあけるセーラ		ミンチン(off)「お入り」
30	院長室　入って来るセーラ ドアを閉め、手前へ		
31	セーラ、院長の方へ歩む		
32	院長の方に近づき止まるセーラ デスクに向っていたミンチン振り返る　表情ゆがむ(口許が斜めにゆがむ)　立ち上がり、セーラに近寄る		セーラ　「お早うございます院長先生」 ミンチン「お早う」
33	ミンチンにT・U　下を見る (セーラの足もと)		
34	セーラの足もとからPAN UP		
35	ぐっと見つめてやさしい顔になり		ミンチン「生徒たちを教える心構えは出来ていますね」
36	ミンチン、ナメ　セーラ		セーラ　「はい、院長先生」

37	にっこりとして大きくうなづき（満足したのです）	ミンチン「よろしい……お前が父を亡くした時、私にどう申し出たか憶えている筈です」
38	セーラ	セーラ「はい……」
39	一寸きつい顔になるミンチン高飛車に言う　T・U（尻一杯止めなし）	ミンチン「そう、お前はこう云ったのです」
45 ←～ 40	十二話兼用　院長室でエミリーを抱いて懇願するセーラ ミンチン、セーラ セーラ ミンチン	セーラ「院長先生、ここに置いて下さるなら私、どんな事でも致します」 ミンチン off「そう……」 セーラ「はい、私、ロッティたちにならフランス語を教えられると思います。ロッティたちも私になついていますから」 ミンチン「おだまりなさい！　生意気を云うのはおやめ！　お前は明日から台所で働くのです！」
46	満足そうに、にっこりとして	ミンチン「そのお前が、こうしてあの時の希望を聞いて貰えるのも……私の思いやりからです……」 ～

47	じっとミンチンを見つめるセーラ セーラ大きくうなづいて返事をする		その事を決して忘れないように……判りましたね…」 セーラ　「はい院長先生……」
48A	にっこりとするミンチン 顔を上げるミンチン		S・E　（扉の開く音）
48B	ドア、開き　デュファジュル入って来る　ドア閉じ、手前へ		
49	デュファルジュ立ち止まり 椅子、テーブルなめ		デュファルジュ「やあお早う、院長先生」 ミンチン「お早うございますデュファルジュ先生」
50	デュファルジュ、セーラを見て 微笑して　向き直るセーラ		デュファルジュ「お早う！…セーラ君！」 セーラ　「お早うございますデュファルジュ先生」 デュファルジュ「どうかね、今日から授業を受け持つ気分は？」
51	セーラ、にっこりと笑顔を見せる		セーラ　「はい、とても嬉しいです。ロッティたちと一緒に勉強できるなんて」

52	デュファルジュ、笑い		デュファルジュ「はっはっはっ では、教える方は君に任せるとするかな」
53	セーラ		セーラ「はい、デュファルジュ先生」
54	ミンチン、セーラに セーラ　ドアの方へ歩く		ミンチン「では先に教室に行って待っているように」 セーラ「はい、院長先生…」
55	同、廊下　出て来る セーラ振り返り、こみ上げてくる喜びに胸をかかえるようにして宙を見つめ、大きく息を吸って教室の方に歩き出す		
56	教室　前　セーラ立ち止まり、ドアのノブを持ち、ふとためらう　扉を見つめる		S・E（騒がしい生徒の声――大きくなる）
57	アーメンガードたちと笑いながら話しているロッティ		S・E（ガヤガヤ） ロッティ「……こんなよ」 二人「ハハハ…本当に……」

	ロッティうなづいて奥へ走る		
58	アーメンガード、クリステルと笑顔で見合わせてる　奥でラビニアたちが談笑している		
59	ガートルード、ラビニア、ジェシー		
60	ドルシラ、リンダとごきげんに話しているロッティ　にこにことうなづく二人　ロッティ手前に走る　ＰＡＮ←　シェファーとダイアナの後を通るロッティ（out）		
61	年少組とごきげんに話をしているロッティ		
62	わいわいがやがやさわぐ生徒達　ラビニアたちがきづいて話をやめて扉の方を見　続くアーメンガードたち		S・E（扉の開く音）

	生徒の騒がしい声、小さくなる		
63	扉をしめて（そう～とね）振り返る		
64	じっと見つめる三人 C＃　兼用書き足し		
65	はっとなってしまうセーラ T・U　目をおろして右の方を見る		
66	セーラを見つめる一同		
67	のぞくように見つめる年少組		
68	見つめ合う一同		
69	セーラ、一、二歩前に出る ラビニアとジェシー顔を見合わせ、にやりとしてセーラの方を見る。前へ出るラビニア		セーラ　「お早う。皆さん！」

70	身をのり出したラビニア、皮肉な笑いをしながら二人顔を見合わせてクスクスと笑い合う		ラビニア「まあ、誰かと思ったら、メイドのセーラだわ……フフ……クク…部屋を間違えたのかしら…」 ジェシー「あなた教室になんの用なの?」
71	途惑いの表情で		セーラ「なんのって……」
72	一寸オーバーなラビニアを見るジェシー 目だけ皮肉にセーラに向けるラビニア 合鎚ちうつジェシー 目を見合わせクスン笑い合う二人		ラビニア「判ったわー! お掃除に来たのね…」 ジェシー「うん…そうよ!」
73	前に出るガートルード、にやにやとして ジェシーもふざけるように		ガートルード「だったら…早く掃除しなさいよ」 ジェシー「あら…掃除道具はどうしたのよ」
74	口唇をかみしめているセーラ		
75	顔を見合わせて笑う三人		
76	ラビニアたちの方を見ていた他の生徒たち、セーラの方を見る		

A・C

	じっと立ち尽しているセーラ T・U　※口惜しそうな顔のアーメンガード はっとなって奥を見るセーラ		ロッティ(off)「やめてよ！」
77	ロッティ、セーラの所へ行き		ロッティ「やめてよ！　セーラママは今日から私達の先生よ！」
78	ジェシー、小馬鹿にしたように身をのり出して にやにやとしながらガートルード		ジェシー「ヘン、なにが先生よ。セーラは今だって、台所で働くメイドなのよ」 ガートルード「そうよ、あんた達にフランス語教えるのは、市長夫人のちょっとした気まぐれからよ」
79	ラビニア、ジェシーの方を見て ひょうきんに大きくうなづくジェシー		ラビニア「でーもよかったわね…私たち。……セーラに教えられるハメにならなくって……」 ジェシー「ウン!!」
80	セーラにしがみつき、にらむロッティ		

81	C＃78兼用書き足し ジェシーとガートルードを見ながら 大きくうなづく二人		ラビニア「……台所のメイドにフランス語を習ってるなんて聞いたら、お母様、きっと私をこの学校やめさせるわ」
82	ラビニアの方を窺うように見ていたアーメンガード、セーラの方を悲しい目付で見る		
83	ロッティ、泣き顔でセーラにとびつく　じっと耐えるセーラ		ロッティ「セーラママ」
84	スーザンとジェイン顔を見合す ペネラビ心細い顔でうつむいていく		
85	うつむき、手を強くにぎりしめているアーメンガード ちらりと顔を上げるアーメンガード		S・E　（扉の開く音）
86	ドア開いてデュファルジュとミンチン入ってくる		

86	ふり返るセーラとロッティ ロッティあわててセーラの手をはなして走り去る　奥の三人も自席にいそぐ		
87	自席に走るロッティ 一同を見ながら中央へ歩くデュファルジュ先生		デュファルジュ「ボンジュール、マドモアセール」 一　同「ボンジュール、ムッシュー」
88	ミンチン手前に来る		ミンチン「では皆さん、今日から年少組のフランス語の授業は隣りの教室でする事に致します」
89	喜ぶロッティ　振り返り見るダイアナ 名前を呼ばれて順にミンチンの方を見る四人		ロッティ「わあ～い」 ミンチン(off)「スーザン、ペネラビ、ジェイン、ロッティー！」
90			〜〜〜 あなた方は、そちらへ移るように」 スーザン達(off)「はーい」
91	アーメンガード、おそるおそる		

	窺い見るように（上目使いで）		アーメンガード「あのオ、…私……」
92	ミンチン		ミンチン　「なんです」
93	アーメンガード、恐る恐る立ち上がる		アーメンガード「私……」
94	ミンチン		ミンチン「なんなのか、はっきり仰っしゃい！」
95	アーメンガード顔を下げて（うつむく）		アーメンガード「私、フランス語ダメだから…」
96	どっと笑う一同		一　同　「ハハ……」
97	にこにことするデュファルジュ		デュファルジュ「残念ながらその通りのようじゃね、アーメンガード君」
98	アーメンガード		アーメンガード「す、すみません」
99	微笑してミンチンと顔を見合わせるデュファルジュ。ミンチン一寸考えてうなづく。デュファルジュ、アーメンガードの方を		

	見て台詞		デュファルジュ「では君もセーラ君の組に移るといいじゃろう」
100	アーメンガード はっと慌てて口をおさえる		アーメンガード「えッ。うわァ、よかった！」
101	ミンチン、セーラに		ミンチン「では、しっかり授業をするのですよ」 セーラ「はい、院長先生」
102	寝ているシーザー 目を覚して顔を上げるシーザー		S・E（扉の開く音）
103	教室から出て手前に歩くミンチン　つづいてセーラ　アーメンガードも先頭に出てくる年少組の四人（アーメンガード、本と石板、四人石板を持っている）		
104	起き上り、大きくのびをしてあるいていくシーザー		
105	ペネラピの足が入っていく		

	扉しまりかかる。急いで来て教 室に入っていくシーザー。しま る扉		（ばたん！）
106	なくシーザー		
107	振り返るセーラ		セーラ　「まあ、あなたもお仲間になりたいの？」
108	C＃　兼用書き足し　シーザー ないて手前にあるく		
109	丸卓を囲み椅子に座る一同 シーザー、ダンロの方へいく 椅子に座るセーラ		
110	ダンロの傍に来て、うずくまる シーザー　尾をぶるんと振って 体にまき込む セーラ笑って 一同の方を向いて眺め回す ペネラビもあわてて姿勢を正す		セーラ　「じゃ静かに座っていてよ」 シーザー「ニャオー！」
111	堅くなっているアーメンガード		

	たち		
112	眺め回して（微笑しながら） うなづくロッティ セーラ、ピネラビ、ロッティ、 アーメンガードの方を見る		セーラ　「さ、今日は、はじめてだから、やさ しい所からはじめましょうね」 ロッティ「うん！」 アーメンガード　「ね、セーラ、 私、フランス語の単語がひとつも憶え られないのよ」 年少の生徒off「ガヤガヤ」 ～ 「私も……」 「そうよ……むつかしいもの」 「うん」
114	生徒たちの方を見るセーラ		
115	それぞれに囁き合う		
116	左右を見てにっこりとして シーザーの方を見		セーラ　「大丈夫よ……じゃ、身の廻りのもの から憶える事にしましょう…… 例えば、この猫は？」
117	シーザー		
118	ロッティ得意そうに		ロッティ「シーザー！」

119	シーザー首を上げ		シーザー「ニャォ〜〜〜」
120	セーラ、ロッティを見、微笑んで首を振る セーラ		セーラ「それはナ、マ、エ」 ロッティ「エエッ?」 セーラ「フランス語で牝猫のことはル、シャ」
121	皆の方を見		セーラ「……はい、みんなで云ってみましょう」 一　同「ル、シャ」
122	シーザー　クシャとくしゃみ		シーザー「ク、シャ」
123	笑う一同 セーラ顔を戻し		一　同「ハハ……クシャだって」 「オカシイ!!」 「ハハハ……」 セーラ「太った猫です……フランス語でいうと、○○○　○○○○　○○　○○○」 ロッティたち「○○○　○○○○　○○　○○○○」
124	後足でアゴをかき　顔を手で何回も拭く		

125	セーラ顔を戻し	セーラ「それでは、可愛いというのは、フランス語で○○○○○」
126	セーラ、アーメンガードたち 一同はっとなってシーザーの方を見る	アーメンガード、ロッティ達「○○○○○」 セーラ「そう……」 シーザー(off)「ニャオー！」
127	オコったように立ち上り、なく シーザー うなって、くるりと去る	シーザー「ウー――!!」
128	オルガンの所に来て寝るシーザー 見送っていた一同笑う	一同「ハハハ……オコッテしまったのよ」 「シーザーがオコッタ……」 「ハハハ……」 ―ETC― セーラ「オコッた猫……というのはね、フランス語で○○○ ○○○、じゃいってみましょう」 一同「○○○ ○○○」（二回くり返す）
129	アーメンガード セーラ、見	アーメンガード「わあ、これなら私にも憶えられそう」 セーラ「でしょ…」

No.	画面		台詞
	うなづくアーメンガード		アーメンガード「うん」
130	ニッコリうなづく一同		
131	セーラ		セーラ「さあもう一度。猫は○○○。可愛いは○○○。太ったは○○○」
132	一同 顔を見合わせて喜ぶ一同		一同「○○○～～。～○○。～○○○」 セーラ「もう一度○○○○、○○○○、○○」 一同「○○○○、○○○○、○○○○」
133	同、台所　洗い終えた皿を持ち上げるベッキー（鼻唄が出る位、大変明るいベッキーなのです）		
134	食器棚の方へ　皿を撰り分けて棚へしまう　買物カゴを持って来るジェームス ジェームスを見るベッキー カゴをベッキーに渡して モーリー入口に現われ入って来		ジェームス「片付けは終ったな…」 ベッキー「ハイ」 ジェームス「今日の買出しはお前に行かせるからな」 モーリー「いいかい！　おつりを間違えるんじ

	る	ゃないよ」
135	明るく元気に 二人を見回す	ベッキー「大丈夫ですとも―!!」
136	元気よく浮前に来るベッキー浮 かれて	ベッキー「行って来まあす。ラ、ラ、ラ、ラン ランラン」
137	ベッキー鼻唄で出て行く	ベッキー「ラ、ラ、ラランラン…」
138	啞然と顔を見合わせるモーリー とジェームス	
139	セーラの教室　石板に書かれる 字	
140	セーラ、書き終り ロッティ達が見せ	セーラ「○○○○　○○○○　○○○○…… さ、云ってみましょう……」 一同「○○○○○　○○○○　○○○○」
141	セーラ	セーラ「そうそう上手ね……もう一度言って」 生徒の声(off)「○○○　○○○○○」

142	同、廊下 ドアの前 後手で窺っているデュファルジュ		セーラ(off)「じゃ、ロッティ、可愛いは…」 ロッティ(off)「○○○○」 一 同 「わあ出来たあ」 カン声 「……」
143	デュファルジュ UP（ゆっくり） 微笑でうなづくと		(off)で生徒の声「　　」

（Aパート おわり）

144	デスクに向って帳簿を拡げているミンチンとテーブルで調べものをしているアメリア（帳簿めくる、アメリア本をめくる等のうごき）		
145	ミンチン、帳簿をめくり見る		
146	アメリア本をもちあげて左右を		

	見くらべている	
147	ミンチン　帳簿をとじ、顔をおこすミンチン	
148	組んだ手の上にあごをのせ、宙を見て考えているミンチン 目をつむり　目をあけ　眉を寄せる　きっと目を大きく見開き いやらしい笑いを口許に浮べる 手を前に（あごからはずす）出して、大きく悦に入ったようにうなづく。　御きげんな気もちが軽々とした動きとなって振り返る	ミンチン「アメーリア！」
149	アメリア、はっと顔を上げミンチンの方を見る 明るく浮々としたミンチン、にっこりとしてアメリアを見る。 ?!となって見つめるアメリア ケゲンな表情でミンチンを見つめるアメリア	アメリア「はい、お姉様」 ミンチン「あなた、私がこれから先、あのセーラをどう扱おうとしているか…判って…?」 アメリア「…いいえ…」

	一人悦に入り、含み笑いをして 向き直るミンチン		
	A・C		
150	ミンチンをケゲンな顔でのぞきこむように見るアメリア　宙を見つめるように浮々と話すミンチン 笑った顔付で首をゆっくり大きく左右に振る。真顔になってアメリアのり出すように		ミンチン「セーラの父親が破産して死んだお蔭でこの学院がどれ程損害を受けたか…あなたもおぼえているでしょう」 アメリア「ええ…だからお姉様がセーラをメイド代りに…」 ミンチン「いいえ！……。それだけでは不充分です」 アメリア「えっ？」
151	握った手をつかんだり、はなしたりするミンチン　シートにうつるミンチンの顔、不気味な笑顔をしている（蛇が笑ったような顔）		ミンチン「私は、いずれあの子を仕込んで、この学校の教師にさせるつもりです」
152	（何てすごい事を考えるおねえさんでしょう。私には想像もつかない事を）思わず身体をミンチンの方に向ける。机の手を落してしまうアメリア		アメリア「まあ!!」

152	すっと立ち上がり、アメリアの方を見て満足げに笑い、机からはなれるミンチン　顔には依然として笑いが残っている（アメリア、貴方は若い、私の深遠な考えはとても判らないでしょうね…フフフ）　自分の考えに酔っているミンチンゆっくりと歩く		ミンチン「…あの子には、なかなかの勉学心があります 〜〜〜 二、三年もたてばフランス語ばかりか他の学科も任せられるようになるでしょう」
153	満足げな笑を浮かべてるミンチン　FOLLOW 止まるミンチン		
154	唖然としてミンチンを見つめるアメリア アメリアを見るミンチン ゆっくりと歩き出すミンチン		ミンチン「そうなれば…他の先生を頼む出費を節約出来、ここ学院経営に大きなプラスになる筈です」 アメリア「…では、お給料も払わずに…?!」 ミンチン「当然です…。あの子には、そうやって私たちに損害を返す義務がありのです」
155	ミンチンを見つめていた目を落とすアメリアつぶやく		アメリア「…可哀そうに……一生ただ働きなんて…私と同じだわ……」

156	ミンチン振りむき		ミンチン「なにか云って？……」
157	アメリアあわてて顔をおこし、とり繕う		アメリア「いいえ……でもあの子が大人になって、もしここを出たいと…」
158	ミンチン、キッ！となって正面を向き。ギュッとスカートを握りしめる グッとアメリアをにらむようにして言う		ミンチン「許しません……！あの子は一生私に逆らうことのないよう、今日からビシビシ仕込むつもりです……。判りましたね、アメリア!!」
159	アメリア		アメリア「はい、お姉様……」
160	ミンチン、満足の微笑をうかべうなづき		ミンチン「さ、あの子の教え振りを見て参らなくては…」
161	オルガンの傍で寝ながら尾を振っているシーザー		セーラ「小さいは、大きいは」 一同「○○○…○○○」 セーラ「そう…あるく、走るは…」 一同「○○○…○○○」 セーラ「そうね…笑う、泣くは…」 一同「○○～○○」

162

セーラ、一同を眺め回しながら
にこにこしながら顔を見合わせて喜び合う子供たち
身をのり出し
肩をすくめ、ペリロリと舌を出すロッティ
セーラ、とまどい
甘えるようにセーラににじりよって

セーラ　「今日は随分フランス語の単語を沢山憶えたわね」
ロッティ「ね…セーラママ……じゃなかった……。セーラ先生！　沢山憶えたごほうびにお話して！」
セーラ　「ええ…？」
ロッティ「ね、お話して、お願い」

163

一同、セーラの方を見て、口口に騒ぐ
セーラ、見回し、うなづく

声　「そう、お話」
　　「お話して！」
セーラ　「でも…なんのお話がいいか…」

164

アーメンガード、セーラをにっこりとした表情でみつめ　本を差し出し　受けとるセーラ
本を見て

アーメンガード「……ね、セーラ、お父さんがまた、こんな本を送って来たんだけど…」
セーラ　「まあ、アルフレッド大王の物語ね」

165

ロッティ
セーラ見

ロッティ「ね、誰なの？　その大王って」
セーラ　「アルフレッド大王はね、今から丁度千年ほど前、このイギリスを治めていたとても偉い王様なのよ」

	ロッティ		ロッティ「ヘエエ…どうして偉いの？」
166	セーラ 本をあげて見 皆の方を見		セーラ「イギリスで、はじめて学校を作った王様だし。ラテン語の聖書を英語に訳されたり。そうだわ、今日はアルフレッド大王のお話をしてあげましょうね」
167	喜ぶロッティ達		ロッティ達「うわあ…」
168	セーラ、見廻してにっこりとしてアルフレッド大王の本を拡げ		セーラ「その頃、このイングランドは 〜 北から攻め寄せて来たバイキングたちの為に、国の大部分を占領されてしまっていたのよ」
169	目を輝かせ、聞くロッティ達		
170	セーラ T・U（尻一杯に） O・L		
171	セーラのイメージ 押しよせるバイキング FOLLOW（セピア調のモノトンに）		
172	斗い		セーラ（声）「バイキングとの戦いに破れたアルフレッド大王は」

173	湿地帯の森　妖気漂う霧 PAN→　戦、敗れた大王と兵たち		セーラ（声）「わずかな部下と共に沼地の森に 潜み〜〜〜 王様の身分まで隠して、 再び敵と斗う機会を待っていたのね 〜 森の中で一軒の牛飼いの家を見つけた」
174	狩人姿の大王たち。　手に弓矢、獲物		
175	牛飼いの家　T・U		
176	丸木小屋へ入って行く大王たち		セーラ（声）「アルフレッド大王たちは 疲れをいやすため、その家で 〜 休ませてもらう事になったの。 大王たちを通りがかりの猟師たちだと ばかり思いこんだ牛飼いのおばさんは」
177	部下たち腰を下ろし休む 大王も粗末な椅子に腰かけている　T・B　オバサン炉の火の上のパンをやいている		
178	薪の上に渡された鉄ぐしの上にパン。昇る煙		セーラ（声）「丁度炉ばたで焼いていた焼き菓 子を 〜 見ておくように大王に云いつけて 奥へ入って行ったのよ。 ところが、バイキングを打ち破る事で 〜
179	おばさん、ケーキを指し、何か言い		

No.	画面		台詞・音
180	部下達に大王話す		頭が一杯だったアルフレッド大王は」〜 セーラ（声）「焼きかけているお菓子の事など 忘れて〜 作戦に夢中になってしまったの〜〜〜 焼き菓子がこげるのも気づかず〜 平気でいる大王を〜 そんな身分と知らない牛飼いのおばさ んは」
181	話し合う大王と部下　T・U （カット一杯）		
182	こげるケーキ O・L		
183	夢中で話す大王		
184	おばさん、ケーキを見て怒って いる		
185	おばさん、手を振り上げ T・B		セーラ（声）「いきなり近づくと」 S・E（パチン！）
186	おばさん恐い顔		ミンチン（声）「セーラ！」
187	元の教室　ハッ！　となるセー ラ　顔を上げる		
188	入口に立って　憤怒の形相のミ		

	ンチン		
189	オドロイている一同 ミンチン、スタスタと一同の方へ歩く		
190	セーラ　ハッと見る		
191	ミンチン、手を上げ ミンチン、叩く		S・E（パチン！）
192	セーラ　ひっくり返る A・C		セーラ「あッ！」
193	床に崩れるセーラ		
194	驚く　ロッティとスーザン立ち上り、のぞき見る		
195	倒れたセーラ		
196	シーザーおき上り、一同の方を見る		

197	ミンチン		ミンチン「なにをしているのです！ 私はお前を生徒たちと遊ばせる為に年少組を預けたんじゃありませんよ！」
198	セーラ、おき上り見る		セーラ「………」
199	ミンチン、形相変えて前へ出ようとする 振り返り見るロッティ		ロッティ「やめて！ 〜 セーラ…ママを叩くのはやめてー！」
200	ロッティ、セーラをかばうようにだきつく		〜〜〜 （こぼし）
201	セーラをかばってすがりついているロッティ にらみつけるミンチン		ミンチン「ロッティ！ どくんです！」
202	ロッティ泣きじゃくり乍ら		ロッティ「いやよ、いやよ…！ セーラママ…悪くないもん…!! 私たちにアルフレッド大王のお話聞かせてくれただけだもん」
203	ミンチン		ミンチン「なんですって！」 デュファルジュ(off)「おやめなさい…ミンチン先

	ミンチン、はっ！と振り返る		生…」
204	開いたままのドアから入って来るデュファルジュ		ミンチン(off)「デュファルジュ先生…」
205	デュファルジュ、ミンチンの所へ近づく		
206	ミンチン、ナメ、デュファルジュ		デュファルジュ「ミンチン先生、私も授業が気になって先刻様子をうかがいに来たんじゃが」
207	ロッティ　セーラ		デュファルジュ(off)「セーラ君は遊んでなんぞいませんでしたぞ〜
208	デュファルジュ		それどころか、仲々すばらしい先生振りじゃった。この私が保証しますぞ」
209	ミンチン		ミンチン「ですがデュファルジュさん…」
210	デュファルジュ		デュファルジュ「生徒たちにお話を聞かせていたのをとがめるおつもりじゃな〜

211	セーラ、ロッティ立ち上がる		いけませんぞミンチン先生。授業の間にお話を聞かせるのは、私もよくやること。」
212	デュファルジュ		デュファルジュ「授業を愉しくするには……必要なことですわい」
213	ミンチン		ミンチン「……」
214	デュファルジュ微笑を浮べて		デュファルジュ「それにいま、あなたのなすったことは、アルフレッド大王を殴った牛飼いのおばさんと同じですぞ」
215	ミンチン、いきり立つ		ミンチン「う…そんなこと…！」
216	見つめるセーラ、ロッティ		
217	アーメンガード、ペネラピ		
218	ジェイン、スーザン		
219	ミンチン　T・U		

220	デュファルジュ		デュファルジュ「牛飼いのおばさんも、もし相手が身分の高い大王と知っていたら…殴りかかったりはせん筈じゃったろう」
221	デュファルジュ、セーラの方を一寸見		デュファルジュ「それと同様……。もしセーラ君が以前のように大金持の娘じゃったら～あなたはセーラ君を叩いたりしたでしょうかな」
222			
223	ぐっとつまるミンチン　口唇をかみしめる		ミンチン「……」
224	微笑で首を振り		デュファルジュ「いいや、そうはされなかった筈じゃ」
225	ミンチン、握った手ふるえ、唇ゆがんでいく		ミンチン「……」
226	のぞいているジェシィ、ガートルードたち、ラビニア、ガートルード顔を見せる		

227	元に戻すラビニア はっと見るミンチン		
228	ジェシーたち、　C #226兼用 ギョッとなる一同		
229	ミンチン、キッ！と		ミンチン「な、なにをのぞいているのです！」
232	一瞬身を堅くした一同　はっと なって走って去る		
233	ミンチン		
234	セーラに向き直り		ミンチン「セーラ、今日の所はこれまでにして 置きます！　さ、お前はもう台所仕事 へ戻るんです」
235	セーラ ミンチン手前へ歩きだす		セーラ「はい、院長先生…」
236	ミンチン、荒々しく出て行く		
237	両手をあげ、肩をすくめるデュ		

	ファルジュ		
238	ホッとするアーメンガードたち		
239	ジェイン、スーザン		
240	セーラ　T・U		
241	台所　ドア開き　ベッキー重い 野菜篭をかかえ　入ってくる		
242	野菜を出し　メモと照らし合せ 野菜を出し　メモと照らし合せる		
243	次々と出される野菜		
244	ポケットからつり銭を出し、指 を折り折り　確かめる　うなづ く		
245	肩を落として入って来るセーラ （手に前掛け） ベッキー気づき		ベッキー「お、お嬢様…」

246	セーラ、ベッキー 手のひらのコインを見せ	セーラ「私の代りに買出しに…」 ベッキー「はい…でも大丈夫でしたわ。この通り、おつりも間違えずに
247	ベッキー照れたような笑顔を見せて	〜 もっとも、おつりの計算はピーターがしてくれたんですけど……」
248	セーラ	セーラ「まあ、ピーターに逢ったの？」
249		ベッキー「あ、それをお伝えするのを忘れてました！ お嬢様がフランス語の先生になられたと云ったら」
250	ベッキー　セーラ 一瞬、目を下に落とすセーラ	ベッキー「飛びあがって喜んで」 セーラ「そう……」
251	のり出して、セーラの変化には気づかず　明るく	ベッキー「あの……いかがでした！ フランス語のお授業？」
252	無理をして懸命に笑顔を見せる セーラ　首を左右に振り	セーラ「私、ロッティ達にお話を聞かせてあげていて、院長先生に…」
253	怪訝そうに	ベッキー「院長先生に…？」

254	セーラ		セーラ「ううん……なんでもないの…」
255	ベッキー、セーラに近づき		ベッキー「お嬢さま…?!」 セーラ「ベッキー、もういいのよ」
256	モーリーとジェームス入って来る		ジェームス「おいセーラ」
257	ジェームス、モーリー近づき		ジェームス「先生の代用が終ったら、台所仕事にさっさとかかるんだ」
258	ジェームスFr out		モーリー「院長先生のお云いつけだよ。あと廻しにした玄関洗い、早く片付けておくれ」
259	セーラ 前掛けをつけ始める つけ始める　手伝うベッキー		セーラ「はい」
260	心配そうに見守るベッキー		
261	同　表		

262	水桶を下げて、使用人階段を上るセーラ		
263	上って来るセーラ ※袖まくりしているセーラ		
264	水桶を下ろし（一番上の段）		
265	玄関の石段を洗い始める		
266	洗うセーラ		
267	水桶にブラシをつけ		
268	石段をゴシゴシと（後へ下がり乍ら）		
269	フカン　T・B		
270	教室の窓から見下しているラビニア達		
271	ラビニアふりむきロッティとア		ラビニア「ほら見なさいよ、あんた達のフラン

	ーメンガードに		ス語が働いているわ」
272	ロッティ、アーメンガード手前へ		アーメンガード「えっ？…」
273	ロッティ、アーメンガード窓の方へ		
274	窓から見るロッティ、アーメンガード		
275	石段を洗っているセーラ		
276	ロッティ、アーメンガード		ロッティ「セーラママ」
277	ラビニア達 笑うラビニア達		ラビニア「フフ、先生から台所のメイドに逆戻り……、楽じゃないわね」 「ハハハハ…」
278	泣顔になるロッティとアーメンガード　T・U		
279	同　表　洗うセーラ		

280	ヒタイの汗を腕でぬぐい　洗う		
281	水桶にブラシをつけ		
282	洗う		
283	ドア開き　帰り仕度のデュファルジュ出て来る　ドアを閉め手前へ		
284	セーラの前に止まる足 見上げるセーラ		
285	見下ろしているデュファルジュ セーラ立ち上がる　デュファルジュ降りる		セーラ「あ、デュファルジュ先生」
286	デュファルジュ		デュファルジュ「セーラ君、私の為に辛い思いをさせてしまったようじゃな」
287	明るい笑顔のセーラ		デュファルジュ「許しておくれ」 セーラ「いえ、そんな……」

288	デュファルジュ、叩頭しながら		デュファルジュ「力を落とさんで頑張るんじゃ。 必ず良い運が廻って来る。……では、 オルボワ、マドモワゼルセーラ」
289	セーラ、にっこりと微笑し、うなづく　その前をデュファルジュ in～out		セーラ「さようなら、デュファルジュ先生…」
290	デュファルジュ去る		
291	見送るセーラ　しゃがむ A・C		
292	再び石段を洗い始める		
293	石段を洗うセーラ		セーラ（N）「私は心配でした。私をかばって下 さった事で ～ デュファルジュ先生に悪い事が ～ 起りはしないかと 不安がつき上げて来たからでした」
294	一段下がり		
295	洗う　C#193兼用　T・U 力をこめて石段を洗うセーラ F・O		

（おわり）